

平成 29年度（28年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

| | | | | | |
|------------|----------|------------------|----------|--------|-----------------|
| 総合計画 体系 | まちづくりの目標 | 心豊かで未来を築く人を育むまち | 評価 担当 | 局名 | 教育局 |
| | 政策 | 社会を生き抜く力を育む教育の充実 | | 課(室)名 | 保健体育課 |
| | 施策 | 学校教育の充実 | | 電話番号 | 087-839-2657 |
| | 基本事業 | 豊かな心と体を育てる教育の推進 | | 事業実施主体 | 市 |
| | 事務事業 | 学校体育推進事業 | | 事業期間 | 平成 28年度～平成 35年度 |

【事業全体概要】

| | |
|-------|--|
| 事業の概要 | 児童生徒の交流の場として体育大会等を開催し、体力・運動能力の向上や相互の友情を深めるとともに、教職員の体育指導の資質を高めるなど、体育の充実発展と心身ともに健全な児童生徒の育成を図る。 |
|-------|--|

| | |
|--------|---|
| 29年度概要 | 小学校：水泳記録会・陸上記録会の開催、課外活動等外部講師の派遣 中学校：高松地区中学校体育大会の開催及び参加生徒輸送補助、全国中学校体育大会・四国中学校総合体育大会への参加生徒輸送補助、運動部活動外部講師の派遣等、広くスポーツ実践の機会を与え、児童生徒の体力・運動能力向上や基礎体力の養成を図るとともに、四国・全国体育大会参加に伴い生徒相互の友情を深めることにより、心身ともに健全な児童生徒の育成を図る。 |
|--------|---|

| | | | |
|--------|----------|---------|-------------------|
| 重点取組事業 | 市長マニフェスト | 事務事業の類型 | ソフト事業（法律による実施義務無） |
|--------|----------|---------|-------------------|

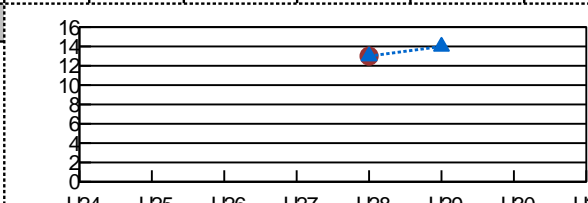
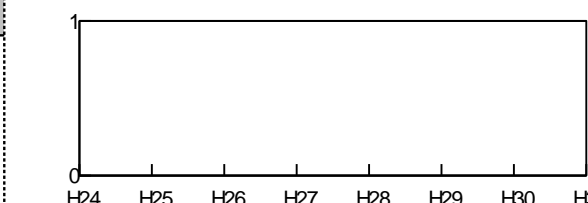
【事業の目的】

| | |
|------------------|---|
| 対象（何を） | 高松市立小中学校の児童生徒 |
| 意図（どのような状態にしたいか） | 各種体育大会等を開催することで、児童生徒の体力・運動能力向上を図り、交流の場を提供する。 また、学校体育の中で、各学校の特色ある体力向上プランを実践し、児童生徒の体力づくりの推進と改善に努め、運動習慣の確立を目指す。 |

【事業の活動】

| 活動指標名（具体的にどのような活動をしたか） | 単位 | H26 | H27 | H28 | H29 | 中期目標 H30 |
|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 特色ある体力向上プランを実践している小中学校 | 学校数 | | | 71 | 71 | 71 |

【事業の成果】

| 成果指標名（どのような成果が得られたか） | 単位 | 種別 | H26 | H27 | H28 | H29 | 中期目標 H30 |
|---|---------|--|-------|--------|-----|-----|-------------|
| 全国調査において本市平均が全国平均を上回るか同等の項目 | 項目数 | 目標値 | | | 13 | 14 | 14 |
| | | 実績値 | | | 13 | | |
| 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 小学女子と中学男子は、1週間の総運動時間60分未満の児童生徒の割合が減少し、体力合計点が昨年度を上回っていることから、各学校の特色ある体力向上プランの実践の成果により運動習慣の定着が図られてきていると考えられる。しかし、小中学校の男女ともに、柔軟性・持久力が必要な種目が低水準になっている。 | (目標達成度) |  | (達成度) | 100.0% | 35点 | | |
| 成果指標名（どのような成果が得られたか） | 単位 | 種別 | H26 | H27 | H28 | H29 | 中期目標 H30 |
| 成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） | (目標達成度) |  | (達成度) | | | | |

【コストの推移】

| 指標名 | 単位 | 平成 26年度（決算） | 平成 27年度（決算） | 平成 28年度（決算） | 平成 29年度（予算） |
|---------|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|
| トータルコスト | [円] | 46,274 | 54,898 | 42,239 | 46,119 |
| （事業費） | [円] | 33,283 | 41,386 | 30,462 | 34,342 |
| （職員人件費） | [円] | 12,991 | 13,512 | 11,777 | 11,777 |

【評価】

| | | | |
|------------|---|--------------------------|----|
| 評価ランク（A～D） | A | 今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止） | 継続 |
|------------|---|--------------------------|----|

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

小学女子と中学男子は、1週間の総運動時間60分未満の児童生徒の割合が減少し、体力合計点が昨年度を上回っていることから、各学校の特色ある体力向上プランの実践の成果により運動習慣の定着が図られてきていると考えられる。しかし、小中学校の男女ともに、柔軟性・持久力が必要な種目が低水準になっている。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

小学生においては、低学年での運動の機会を増やし、運動量を確保することが課題であることから、運動の楽しさを実感させるため、教科指導において、運動のコツやポイントを理解させる。「できる」充実感や達成感を味わわせる。
中学校では、運動を活発に行う者とあまり行わない者との2極化傾向が見られるので、部活動だけでなく、教育活動全体を通じて体育活動を計画的・実践的に行うように年間指導計画の見直しを行っていく。